

記念植樹と日本近代

岡本貴久子著

林学者本多静六の思想と事績

▶ A 5 判・580頁／定価:本体 9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1843-1

2016年4月刊行

ひとはなぜ樹木を植えるのか——。

近代は、実利的な造林計画、あるいは都市美運動などさまざまな場面で記念植樹が大いに奨励された時代であった。

近代日本で行われた「記念植樹」を、個別の歴史事象、林学の創成と展開など時代背景と照合しながら、その活動の主導的立場にあり、方法論を構築した林学者・本多静六に注目し、彼の生家の富士山信仰・不二道の思想的影響も視野に入れながら、近代国家形成のあゆみに記念植樹を位置づける。

◎◎ 内容目次 ◎◎

序章 なぜ記念植樹か／研究の現状／本書の構成

第Ⅰ部 「記念植樹」とはなにか——形態と歴史的諸相

第1章 記念植樹の形態

「記念」に樹を植えるという行為／記念植樹の形態

第2章 記念植樹をめぐる歴史的諸相

前近代と近代をむすぶ記念樹の文化史／古典からよむ記念植樹／壺木信仰と神仏習合／語り継がれる「いのち」の記念樹

第Ⅱ部 林学者本多静六の思想

第1章 不二道の歴史と思想

折原家の由緒と「不二道」／近世富士山信仰史とその思想／小谷三志の不二道の思想／近代社会への移行期における不二道の変遷／不二道孝心講のあゆみ／本多静六と不二道

第2章 本多静六と明治の林学・林政

東京山林学校と明治の林政／ドイツにおける林学と自然思想／本多の西洋思想の受容と展開／ドクトル本多静六の誕生／本多静六の思想形成とその展開

第3章 本多造林学における

記念植樹の理念と方法

諸外国における樹木に関する本多の見聞／記念植樹の空間と思想／樹種選択と日本の風土／『植樹デーと植樹の功德』にみる本多の人生哲学／記念植樹の広がり／本多静六の記念植樹の特徴



第Ⅲ部 「記念植樹」の近代日本

——明治～大正～昭和の系譜——

第1章 学校教育と記念植樹

米国における学校樹栽活動の展開／明治期における学校樹栽の普及と展開／本多静六『学校樹栽造林法』にみる方法と理念／本多の造林学における学校樹栽の要素／明治日本でなぜ学校樹栽が栄えたか／明治期の学校樹栽に見る形と心

第2章 御聖徳と記念植樹——明治から大正へ

御聖徳記念と明治神宮／明治神宮造営における葬場敷地の記念樹／御聖徳記念と即位の御大典記念／南方熊楠の批判／明治神宮の森づくり／明治神宮の森と不二道孝心講の記憶

第3章 平和と記念植樹——第一次世界大戦後の平和記念事業を主体に
帝国森林会の発足—大日本山林会とともに／帝国森林会の歴史と本多静六の位置／平和記念植樹の理念と方法／帝国森林会における記念林の運営／平和記念東京博覧会と帝国森林会の記念樹／平和と記念植樹

第4章 帝都復興と都市美運動——都市緑化の理念と方法

関東大震災と帝都復興／都市美運動の成立とその背景／日本の都市美協会の活動とその展開／東京の都市美運動における「植樹デー」／土着化した都市美運動

第5章 「大記念植樹」の時代——昭和戦中期の時局を基軸に

皇紀二六〇〇年記念事業における植樹活動／「大多摩川愛桜会」の記念植樹／桜の多摩川づくり／国際親善と記念植樹／日本の戦時統制下における記念植樹／忠霊と記念植樹

終章 記念植樹と日本人——ひとはなぜ樹を植えるのか

記念植樹の心と形／山の信仰と本多静六の記念植樹／近代日本における記念植樹の系譜／「荒れた国土に緑の晴れ着」

おかもと・きくこ…国際日本文化研究センター共同研究員。東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了、総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程修了、博士(学術)。所属学会は文化資源学会、美術史学会、生き物文化誌学会。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	記念植樹と日本近代		本体9,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1843-1
お名前	〒		tel	本書HPのQRコード	
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

万国博覧会と人間の歴史

佐野真由子編

万国博覧会から人間の歴史が見える！本書は従来の研究の枠組みを超え、多様な領域の研究者のほか、万博をつくり、支える立場の政府関係者、業界関係者が集い、さらにアジア各国の研究者を迎えて、ともに議論を重ねた共同研究の成果25篇。

▶A5判・758頁／本体9,200円(税別) ISBN978-4-7842-1819-6

水系都市京都 水インフラと都市拡張

小野芳朗編著

都市経営の重要な要素のひとつが、利水・治水を含めた水の制御である。本書は、近代京都の都市史を水量・水質・水利権に着目して水インフラという視点から論じるとともに、同一水系に属する伏見が一度は独立市制を志しながら京都市へ合併される顛末を明らかにする。

▶A5判・310頁／本体5,400円(税別) ISBN978-4-7842-1815-8

近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

近代に大きく変わったまち・京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。

▶A5判・628頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1413-6

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づける。23の大項目と344の小項目で系統的・組織的に日本の産業技術史を俯瞰した画期的な事典。近代化以前からの「草の根」における技術と技能の蓄積に対しても光を当て、民間の「現場」の力を重視する。

▶B5判・550頁／本体12,000円(税別) ISBN978-4-7842-1345-0

※近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都官津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。

▶A5判・364頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1570-6

近代古墳保存行政の研究

尾谷雅比古著

近代日本の文化財保存行政について古墳を素材としてとりあげ、その背景にある国家の理念とそれに基づく施策、実施される行政行為の歴史の変遷をあとづける。巻末に、国・地方の歴史的行政資料や行政文書を抽出した関係史料集を収録。

▶A5判・368頁／本体7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1734-2

近代日本の都市社会政策とマイノリティ

杉本弘幸著

歴史都市の社会史

近代日本の社会政策・社会福祉の受益者である社会的マイノリティはどのように政策形成に関与しようとし、政策に包摂されていったのか。蔓延する貧困と格差への対応を模索し続けている現代社会に、政策の受益者の動向から再構成した社会政策史・社会福祉史の実証研究を提示する一書。

▶A5判・412頁／本体7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1789-2

近世吉野林業史 オンデマンド版

谷彌兵衛著

吉野の地に生まれ、林業とそれに携わる人々の浮沈を間近に見て育った著者が、吉野林業の光と影を、史料に基づいて実証的に明らかにする。吉野林業を始めて通史的にとりあげた研究として、画期的な意義を有する。オンデマンド版(初版2008年)

▶A5判・540頁／本体11,100円(税別) ISBN978-4-7842-7001-9

近代日本<陳列所>研究

三宅拓也著

明治期から地方行政府によって建設された公共の陳列施設。それらが都市の農業・工業・商業を奨励する目的で各地に設置された経緯を検証し、制度・活動・建築を含めて都市との関わりに注目することで、〈陳列所〉の実態を豊富な図版とともに明らかにする。

▶A5判・640頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1788-5

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

北垣国道(1836-1916)は、京都府知事に就任した明治14年(1881)から、北海道庁長官・拓殖務次官などを経て、隠棲した明治34年(1901)までの活動や人々との交流を日記に書き残した。明治期地方官の実情を記し、京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。

▶A5判・652頁／本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1499-0

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

研究分野の相違を問わず、また、時流の政治や論調に動ずることなく、「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じようと開かれた京都大学人文科学研究所「近代京都研究会」。そこで論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。

▶A5判・268頁／本体2,600円(税別) ISBN978-4-7842-1378-8

近代日本公園史の研究

丸山宏著

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題・都市問題・記念事業・経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。

▶A5判・400頁／本体8,400円(税別) ISBN4-7842-0865-8

京都 近代の記憶 場所・人・建築

中川理著

東京遷都により没落の危機に見舞われ、都市改造や近代建築の導入に積極的に取り組む一方で、まさに生き残りを懸けて「千年のみやこ」を演じてきた街、京都。いまある京都の魅力はいつ、どのように作られたのか？「歴史都市」の近代化の過程で生まれたさまざまなエピソードを、場所・人・建築をキーワードとして写真とともに綴る。

▶A5判・184頁／本体2,200円(税別) ISBN978-4-7842-1812-7

幕末維新期の陵墓と社会

上田長生著

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目し、社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

▶A5判・400頁／本体6,200円(税別) ISBN978-4-7842-1604-8

明治期における不敬事件の研究

小股憲明著

天皇を中心とする明治政府の誕生以来、数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった不敬事件を、明治期について網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明らかにしようとする大著。

▶B5判・576頁／本体13,000円(税別) ISBN978-4-7842-1501-0

※鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光(巡礼)・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内面的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶A5判・352頁／本体5,500円(税別) ISBN978-4-7842-1336-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。